

## 第1章 震災以前の神戸

神戸は六甲の山並、穏やかな内海、起伏のある変化に富んだ地形、温暖な気候という自然条件に恵まれ、歴史的にも「都」の近くにある天然の良港として“みなと”とともに歩んできた都市である。とりわけ、1868年の兵庫開港以来、横浜と並び、我が国の近代化の中で、欧米文化・情報の窓口となる港をもつ都市として飛躍的な発展を見ることとなった。いわば我が国の近代における「国際化」と「情報化」によって産業が興り、洗練された生活文化を育んできた“街”である。

このような都市形成の歴史から、神戸

のイメージは「異国情緒」、「ハイカラ」、「モダン」な国際的な“街”としてとらえられ、近年は世界初の人口島ポートアイランドの完成を記念して開催された「ポートピア'81」そして、昭和60年、学生のオリンピックといわれる「ユニバーシアード神戸大会」、平成元年の「フェスティック神戸大会」の開催などにより「ノスタルジーと未来の街」、「エキゾチックな異人館とポートアイランド、六甲アイランドの先進的なまちづくり」等のイメージが形成されている。

このように神戸は大規模なイベントの



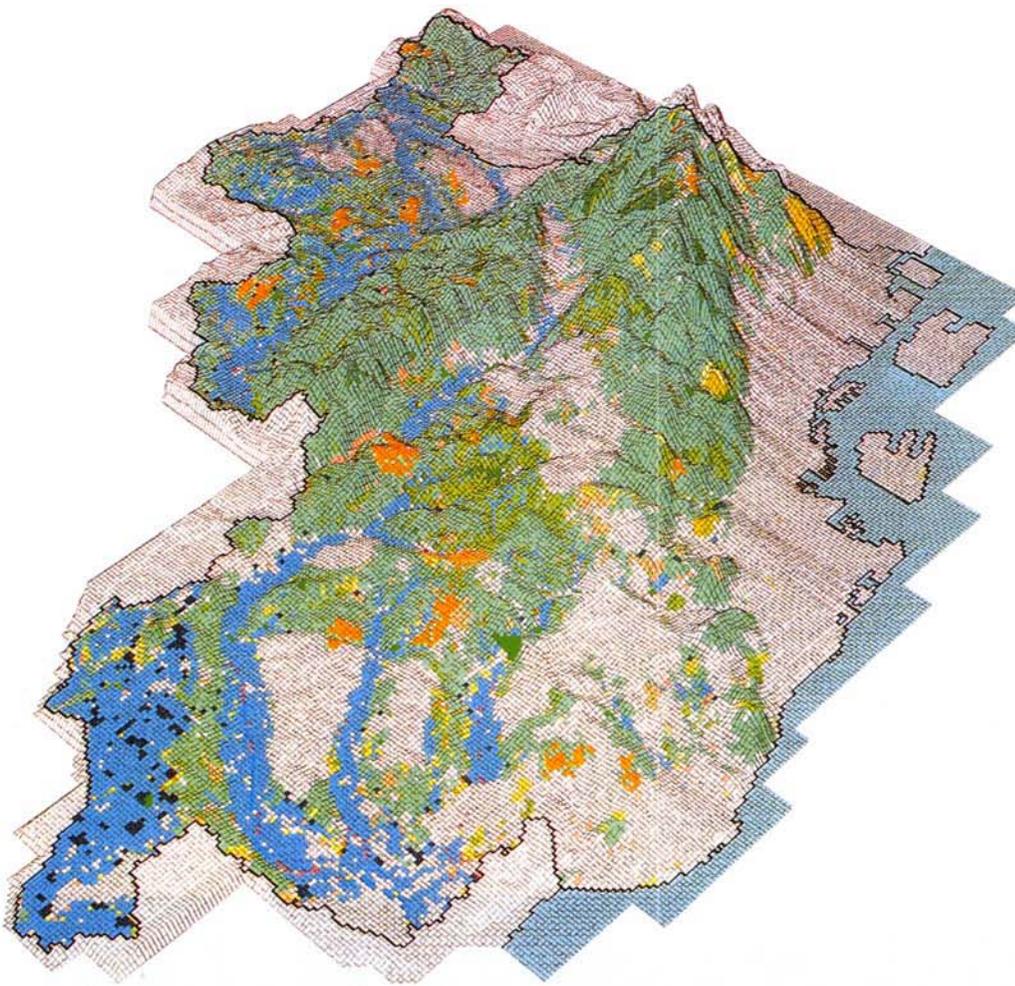
開催によって、ファッション・コンベンション・観光都市づくりや、臨海部あるいは内陸部での新たな都市づくりなどの情報を国の内外に発信してきた。そのことによって形成された神戸の良いイメージを活かし、さらに、神戸が市民・事業者・市と一体となって進めてきたまちづくりの進め方を国の内外に問いかけるべく、平成5年「アーバンリゾートフェア神戸'93」が神戸市全域をステージとして開催された。都市の活力ある営みを象徴する“アーバン”と人間性の回復空間を象徴する“リゾート”とを調和させな

がら人間性豊かな質の高い調和のとれた都市生活、都市環境の実現をめざすアーバンリゾート都市神戸、その目標に向かって2010年に向けたまちづくりの方向を示す「神戸市総合基本計画」（第4次基本計画）の策定が進められていた。この計画がまとまりつつあった平成7年1月17日、神戸を大地震がおそった。

震災以前の神戸の自然の状況は以下のとおりである。



図1-1 神戸の地勢（第3次総合基本計画から）



この地図は神戸市の地形と植生を一边125mのメッシュで表現したもので、神戸市を南西の方角から傾角45度で見た下ろした鳥瞰図である（視点は国鉄西明石駅の南西約10km、高度約270mの位置にある。なお高さは水平距離の約5倍に誇張されている）。

ただしデータの制約から次のような簡便化を行っている。

- 事業途及び実施中の開発地は、その全区域を市街地として扱っている。
- 市街地の標高データは機械処理上で与えたものである。

凡 例	
1	イヌブナフナ群落
2	ウラシロカシ群落
3	シイカメモチ群落等
4	ウバメガシ群落
5	河川（ヨシ群落及びツルヨシ群落を含む）
6	サワシロキク群落及びイトイヌノハシゲ群落
7	池及びヒシ群落
8	アカマツモチツツシ群落（一部自然林も含む）
9	コナラ群落
10	アキニレータケ群落
11	アカメガシワノミ群落
12	クスノキ群落
13	ミヤコザサ群落
14	ススキ群落
15	セイタカアワダチソウ・オオアレチノギク群落
16	スキ・ヒノキ群落
17	クスノキ群落
18	ニセアカシア群落
19	モウソウチク・マダケ群落
20	シナダレスメガヤ群落
21	水田
22	畑等
23	ゴルフ場
24	市街地等
25	海

植生の表示は、メッシュ内で最も優占する群落又は土地利用で代表させている。ただしメッシュ内に自然植生（1〜4及び6番）がある場合は、その群落で代表させている。なお、「シイカメモチ群落等」にはアラカシ・ヒメズリハ群落、アラカシ・カゴノキ群落等、「畑等」には果樹園、牧草地、芝地等、「市街地等」には造成地、構造物、裸地等を含む。また、市街地内の植生については未調査部分がある。

○ 地 形

市域は、六甲山系によって南北に二分されている。大阪湾に面した南側は、東西に細長い山麓（ろく）台地と中小河川によってつくられた扇状地群で構成され、神戸の中心市街地がここに形成されている。

一方、六甲山系の北は、地形的な特徴が東西で異なる。

西に位置する西神地域は、緩やかな丘陵と、その間を流れる明石川水系沿いの段丘と播磨平野に連なる平野部から成り立っている。

東に位置する北神地域は、比較的平坦な地形の西神地域に対し、丘陵地が波状に展開し、山地の様相を呈している。北神地域は、六甲山系の北に位置する帝釈・丹生山系により、さらに二分される。

○ 水系・海辺

水系は、六甲山系により大きく四分されている。すなわち、六甲山系南側斜面から市街地を通り大阪湾に注ぐ表六甲河川群、六甲山系西側から明石市を経由して播磨灘に注ぐ明石川水系、六甲山系北側から三木市・加古川市を経由して播磨灘に注ぐ加古川水系、六甲山系北側から宝塚市・西宮市を経由して大阪湾に注ぐ武庫川水系である。

海岸は、総延長約30kmに達し、東側約18kmは、港としての整備が進められ、生産・流通空間や都市型親水空間として利用されている。一方、西側約12kmについては、須磨海水浴場を始めとする水辺環境の整備が進められ、レクリエーションの場として利用されるとともに、漁業活動の場としても活用されている。



- 行政区 神戸市は、9の行政区に分かれており、各区の特徴は、次のとおりである。  
人口等の主な指標は表1-2のとおりとなっている。

**西 区**

市の西端に位置し、自然環境に恵まれ、太山寺、如意寺などの史跡も多い。稲作・園芸・畜産などがさかんで、農業公園では周辺で取れるブドウを利用して神戸ワインが製造されている。一方、神戸研究学園都市や、西神住宅団地・工業団地・西神第2住宅団地・神戸ハイテクパーク・神戸複合産業団地の建設など、あたらしいまちづくりが進んでいる。

**垂 水 区**

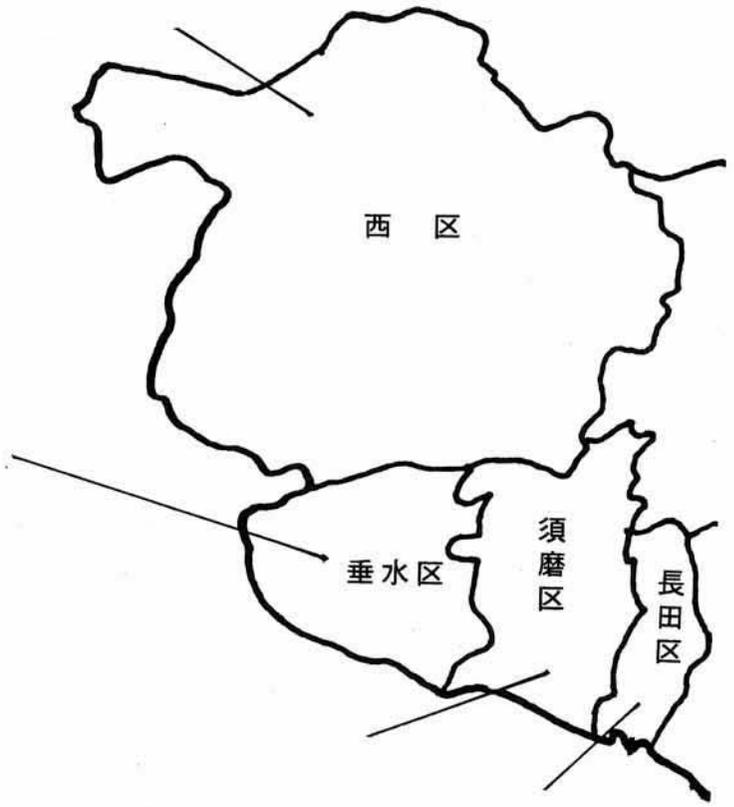
市街地の西端にあり、ほぼ全域が住宅地で、人口が最大の区である。海岸沿いには、漁業の拠点・垂水漁港、海づり公園、垂水スポーツガーデン、平磯芝生広場、五色塚古墳、舞子公園などがあり、多くの人に親しまれている。垂水駅前では、生活都心づくりのための再開発が進められており、明石海峡大橋の建設やマリニピア神戸計画も進められている。

**須 磨 区**

北部の丘陵地には須磨ニュータウンが広がり、現在約11万人が生活している。神戸総合運動公園には、ユニバー記念競技場やグリーンスタジアム神戸などの大規模なスポーツ施設が整備されている。南部には、海水浴場・水族園・離宮公園・海づり公園などがあり、レクリエーションゾーンとなっている。また、敦盛塚など源平ゆかりの史跡もある。

**長 田 区**

面積は最小ながら、人口密度は市内最高。長田商店街を擁する高速・地下鉄長田駅周辺や、西の副都心として新長田駅前周辺に大きな工業・商業が集積している。また、インナーシティの活性化に向け、真野まちづくりに代表される住民主体のまちづくりや地域コミュニティ活動が活発に行なわれている。



## 北 区

六甲山の北に広がり、市域面積の約45%を占める最大の区である。緑豊かな自然に恵まれ、石峯寺・箱木千年家など貴重な文化財が数多くあるほか、関西の奥座敷として有名な有馬温泉もある。従来は大部分が農村地域であったが、交通網の整備とともに、住宅団地が広がり、北部では、六甲北ニュータウンの建設も進められている。

## 東 灘 区

東は芦屋市と接し、北は六甲の山並みが続いている。緑豊かな山ろく部には美術館や大学群が建ち並び、中央部を清流「住吉川」が流れている。臨海部には「灘の生一本」で有名な酒蔵が広がり、海岸の埋め立て地には食品業や運輸業の工場・卸売市場などが立地している。六甲アイランドでは数々の機能と自然が調和する海上文化都市が完成を迎えつつある。

## 灘 区

山上には六甲山牧場、カンツリーハウスなどのレジャー施設を持つ六甲山、摩耶山を背に、山すそは住宅・文教地域、南部は工業地域になっている。西部には市民の憩いの場の王子公園、王子市民ギャラリーがあり、中心部にも、灘区民ホールがある。JR六甲道駅周辺は再開発事業により、東の副都心として発展している。

## 中 央 区

主要官公庁や企業のオフィスが集まり、行政・経済の中核的役割を担っている。海上文化都市・ポートアイランドには港湾施設・コンベンション施設やファッション産業のビルなどが並び、JR神戸駅東側に位置するハーバーランドは、複合多機能都市としてにぎわっている。また、布引公園、異人館街、メリケンパークなど、見どころも数多くある。

## 兵 庫 区

古くから瀬戸内海の交通の要衝として栄え、平安時代末期には平清盛によって、一時都が福原に置かれた。現在、北部は住宅地域、中部は新開地・湊川地区を中心に商業地域となっている。会下山公園・湊川公園などの市民の憩いの場をはじめ、史跡も数多くある。南部には電機・車両などの工場が並び、市民の台所・中央卸売市場本場もある。

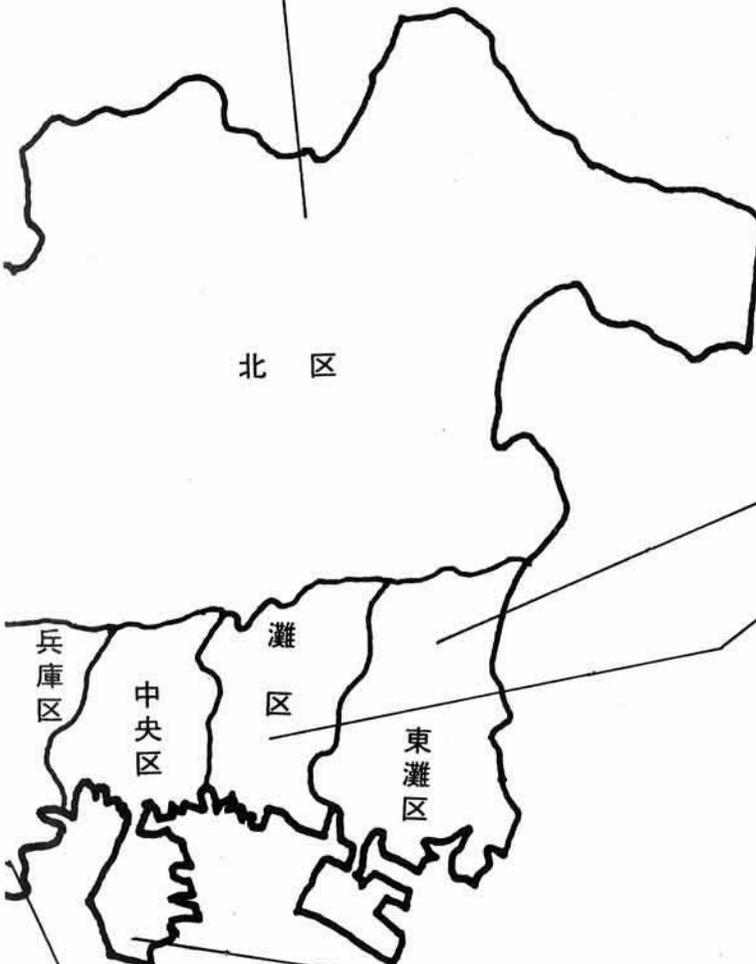


表1-1 数字に見る神戸

<p><b>人口・世帯数・面積</b> (平成6年10月1日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●人口 1,518,982人</li> <li>●世帯数 578,634世帯</li> <li>●面積 547.39km<sup>2</sup></li> </ul>	<p><b>過去の最高・最低気温</b></p> <p>最高 37.6℃ (大正3年8月6日)</p> <p>最低 -7.2℃ (昭和56年2月27日)</p> <p><b>過去の一日最多降水量</b> 319.4mm (昭和42年7月9日)</p> <p><b>過去の月間降水量</b></p> <p>最多 628.0mm (明治36年7月)</p> <p>最少 1.0mm (昭和14年12月)</p> <p><b>過去の一日最多積雪量</b> 17cm (昭和20年2月25日)</p>	<p><b>神戸のNo.1</b> (平成5年4月1日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●一番高い所 六甲山頂 (931.3m)</li> <li>●一番低い所 灘区味泥町 (-0.2m)</li> <li>●一番長い橋 六甲大橋 (400m)</li> <li>●一番長いトンネル(道路) 第2新神戸トンネル (7,175m)</li> </ul>
<p><b>気象</b> (平成5年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●気温 平均 15.5℃ 最高 33.2℃ 最低 -0.6℃</li> <li>●湿度 平均 69%</li> <li>●風速 平均 3.5m/s 最大 15.7m/s</li> <li>●降水量 年間 1,724.5mm</li> </ul>		

(★は平成5年平均、\*は5年10月1日現在、☆は6年5月1日現在、そのほかは6年3月末現在)

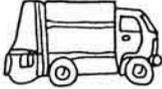
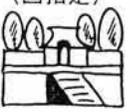
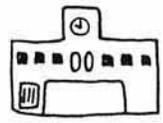
<p>出生 (1日当たり)</p>  <p>★37.3人</p>	<p>死亡 (1日当たり)</p>  <p>★29.6人</p>	<p>市外からの転入 (1日当たり)</p>  <p>★174.0人</p>	<p>市外への転出 (1日当たり)</p>  <p>★155.5人</p>	<p>水道普及率 (人口)</p>  <p>99.95%</p>
<p>下水道普及率 (人口)</p>  <p>97.4%</p>	<p>ゴミ処理量 (1日当たり)</p>  <p>2,180 t</p>	<p>公園面積 (1人当たり)</p>  <p>14.9m<sup>2</sup></p>	<p>街路樹本数 (100人当たり)</p>  <p>27.6本</p>	<p>図書館</p>  <p>10</p>
<p>国宝</p>  <p>4</p>	<p>重要文化財 (国指定)</p>  <p>130</p>	<p>病院</p>  <p>*113</p>	<p>診療所 (歯科以外)</p>  <p>*1,355</p>	<p>歯科診療所</p>  <p>*794</p>
<p>保育所 (公立・民間)</p>  <p>☆158</p>	<p>児童館 (公立・民間)</p>  <p>☆99</p>	<p>地域福祉センター (公立・民間)</p>  <p>103</p>	<p>老人ホーム (公立・民間)</p>  <p>35</p>	<p>大学</p>  <p>☆15</p>
<p>短大・高専</p>  <p>☆11</p>	<p>高校</p>  <p>☆61</p>	<p>小・中学校</p>  <p>☆281</p>	<p>幼稚園</p>  <p>☆195</p>	<p>盲・ろう・養・専修 各種</p>  <p>☆114</p>

表1-2 区別主要指標

項目	年次	全市	東灘区	灘区	中央区	兵庫区	北区	長田区	須磨区	垂水区	西区	(再掲) 北須磨
面積 (km <sup>2</sup> ) a)	6.10.1	547.39	30.36	31.23	23.61	14.44	241.84	11.51	29.65	26.78	137.97	17.19
人口	55.10.1	1,367,390	183,284	142,313	115,329	142,418	164,714	163,949	155,683	212,758	86,942	63,820
	60. "	1,410,834	184,734	133,745	119,163	130,429	177,221	148,590	181,966	224,212	110,774	95,746
	6. "	1,518,982	191,540	124,891	111,536	117,918	216,036	130,466	188,863	237,781	199,951	109,865
世帯数	6.10.1	578,634	77,077	55,397	52,271	53,326	70,766	53,284	66,220	87,242	63,051	35,035
人口増加数	6年	9,470	△297	△1,437	△1,284	△1,853	5,921	△2,106	574	△141	10,093	848
65歳以上人口	2.10.1	169,316	20,498	18,340	15,657	20,766	18,515	22,494	18,179	22,294	12,573	5,921
65歳以上人口比率 (%)	2.10.1	11.5	10.8	14.2	13.5	16.8	9.3	16.4	9.7	9.5	7.9	5.6
昼間人口比率 (%)	2.10.1	103.5	94.2	101.2	269.2	125.1	72.6	104.9	80.0	68.4	97.1	...
人口集中地区 面積 (km <sup>2</sup> )	2.10.1	129.6	22.8	11.0	14.5	9.4	14.1	9.8	15.7	19.3	13.0	...
人口集中地区 人口	2.10.1	1,356,779	190,159	128,377	115,445	122,265	151,872	136,667	180,913	228,391	102,690	...
登録外国人数	6.3.末	44,205	3,798	3,615	10,764	3,074	2,524	10,382	5,407	2,899	1,742	1,786
事業所数 b)	3.7.1	85,737	7,519	7,776	25,744	11,910	4,606	11,507	5,552	5,886	5,237	1,353
従業者数 b)	3.7.1	772,364	79,019	55,636	279,505	101,048	37,912	73,216	45,090	36,923	64,015	16,479
工業事業所数 b)c)	5.12.31	4,200 (6,741)	327 (418)	197 (355)	385 (648)	521 (857)	116 (175)	1,534 (2,689)	397 (639)	126 (192)	597 (768)	44 (81)
製造品出荷額等 (億円) b)c)	5年	31,979 (32,292)	6,196 (6,208)	914 (934)	4,893 (4,937)	10,261 (10,307)	448 (459)	3,073 (3,192)	588 (614)	242 (250)	5,364 (5,391)	χ (χ)
卸売業商店数 b)	3.7.1	6,797	571	432	2,904	1,236	125	778	218	183	350	67
小売業商店数 b)	3.7.1	19,442	1,900	2,130	4,735	2,696	1,260	2,410	1,430	1,743	1,138	341
一般飲食店数 b)	4.10.1	9,849	833	898	3,441	1,383	455	1,174	635	583	447	161
卸売業年間販売額 (億円) b)d)	3.7.1	65,860	7,640	2,466	35,650	10,457	275	3,672	1,933	393	3,375	1,055
小売業年間販売額 (億円) b)d)	3.7.1	19,799	1,931	1,225	7,501	1,774	1,267	1,305	1,418	1,439	1,939	706
一般飲食店年間販売額 (億円) b)d)	4.10.1	2,622	202	159	1,353	194	117	155	154	153	135	59
住宅総数	63.10.1	556,790	78,110	57,330	55,240	58,480	60,830	59,780	64,760	83,790	38,460	b)30,640
生活保護実世帯数e)	6年	15,005	726	1,163	2,577	2,963	1,063	3,685	1,159	1,045	541	363
保育所措置人員	6.3.1	13,791	1,156	959	1,336	1,159	1,363	2,847	1,632	1,386	1,953	1,001
幼稚園児数	6.5.1	23,968	2,827	1,859	1,205	833	4,149	1,599	3,662	4,438	3,396	...
小学校児童数	6.5.1	101,677	12,492	6,284	5,993	5,206	16,322	6,290	14,314	16,563	18,213	...
中学校生徒数	6.5.1	54,387	6,591	5,935	3,463	2,609	7,821	3,259	7,939	8,392	8,378	...

a)平成元年以降は、国土地理院面積調(昭和63年10月1日現在)を基礎に積算している。なお、北区については一部境界未定であるため、昭和62年の数値を基礎に積算し、北須磨支所は、神戸市算定数値を基礎に積算している。  
 b)神戸市集計分である。  
 c)従業者4人以上の事業所の数値である。( )内の数値は従業者3人以下の事業所を含む。  
 d)調査日前1年間の数値である。  
 e)各年3月中の数値である。全市には「更生センター」の数値を含む。

## 第2章 地震の概要

### 1. 概要

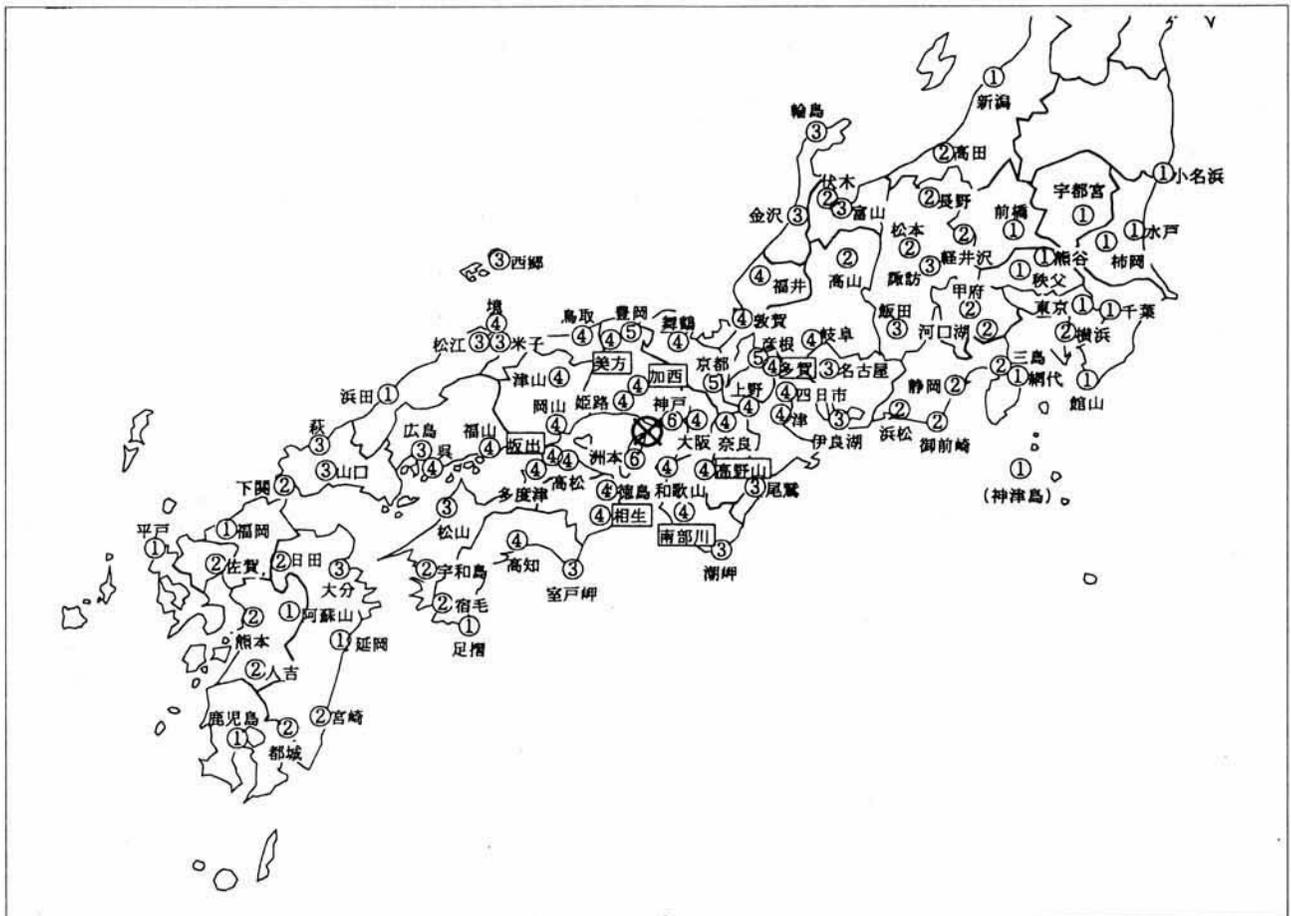
平成7年1月17日午前5時46分、淡路島北部の北緯34.6度、東経135.0度、深さ14kmを震源とするマグニチュード7.2の地震が発生した。この地震により、神戸と洲本で震度6を観測したほか、東北地方南部から九州にかけての広い範囲で有感となった。

この地震にともない、大阪管区気象台等は

「ツナミナシ」の津波注意報を発表した。

この地震による被害は極めて甚大で、県下の人的被害は死者5,480名、行方不明者2名、負傷者34,900名にのぼり、67,421棟が全壊し、ガスの供給停止、断水、停電も膨大な数に上った。この数字は、昭和23年(1948年)の福井地震(死者3,769名、負傷者22,203名、家屋全壊36,184戸)を大幅に上回り、今世紀の地震災害としては関東地震(関東大震災)に次ぐものとなった。

図2-1 本震の震度分布図



資料：気象庁「災害時地震・津波速報」

## 2. 本震の状況

(1)発生日時 平成7年1月17日(火)  
午前5時46分

(2)震源地 兵庫県淡路島  
北緯34.6° 東経135.0°

(3)震源の深さ 14km

(4)規模 マグニチュード7.2

(5)津波 なし

### (6)各地の震度

震度	気象官署
震度6	神戸、洲本
震度5	彦根、京都、豊岡
震度4	福井、敦賀、岐阜、四日市、津、上野、奈良、舞鶴、大阪、高野山、和歌山、姫路、徳島、鳥取、境、津山、岡山、高松、多度津、高知、福山、呉
震度3	諏訪、飯田、富山、輪島、金沢、名古屋、伊良湖、尾鷲、潮岬、室戸岬、西郷、米子、松江、広島、松山、萩、山口、大分
震度2	高田、長野、軽井沢、松本、横浜、甲府、河口湖、三島、静岡、御前崎、浜松、伏木、高山、宇和島、宿毛、下関、日田、宮崎、都城、佐賀、熊本、人吉
震度1	小名浜、新潟、水戸、柿岡、宇都宮、前橋、熊谷、秩父、東京、千葉、館山、網代、浜田、足摺、延岡、福岡、平戸、鹿児島

### (7)気象庁の現地調査により震度7とされた地域

当時の地震計は最大震度6までしか計測できないため、それ以上については、気象庁の現地調査により決定される。

気象庁本庁は、17日に2班(計5名)からなる地震機動観測班を現地に急派し、大阪管区気象台、神戸海洋気象台、徳島地方気象台、洲本測候所とともに地震計の設置、被害状況の調査を行った。気象庁はその後逐次地震機動観測班の増強を行ったが、調査の結果、神戸市と淡路島北部の一部地域では、震度7であったことが判明した。

#### ①淡路島

##### ・断層の表出

今回の地震によって生じたと思われる断層の

露頭が認められた。露頭は淡路島の北西部の海岸線にほぼ平行で直線上に点在し、島の北端に近い北淡町江崎付近から北淡町富島付近までおよそ8kmにわたって認められた。各露頭における観測では、走行はおおむね北東方向、右横ずれ、水平変位量は70~210cm、上下変位量は15~120cm、西おち(断層の西側が下に動く)があった。特に北淡町野島平林付近では、露頭がおおよそ150cmにわたって認められ、最大水平変位量210cmで断層面に擦痕(断層が動いたときの擦り痕で、これから断層がどう動いたかがわかる)が認められた。

#### ②神戸市

神戸市及びその周辺に関しては、これまでに神戸市内9区のうち山側の2区(北区、西区)を除く南部7区と芦屋市の一部で調査を行った。

##### ・垂水区

南東部の一部地域で木造家屋の倒壊が見られた。

##### ・須磨区

南部では木造家屋の倒壊や電車の脱線などが見られ、一部では高速道路の高架が切れていた所もあった。

##### ・長田区

国道28号線添いの地域で木造家屋の倒壊、一部鉄筋ビル圧壊などの被害が大きい。木造家屋が集中していたこともあって、地震発生後各地で火災が発生し、特に犠牲者が集中した。

##### ・兵庫区

山手幹線から国道28号線の間と比較的狭い範囲の被害が大きく、木造家屋のほとんど、鉄筋ビルの一部が一階の圧壊もしくは座屈などで傾くなどの被害が見られた。

##### ・中央区

三宮駅の周辺からフラワーロード沿いの地域では、鉄筋ビルが根元から倒壊、もしくは中程の階が圧壊し傾くなどの甚大な被害が生じた。

高速道路高架橋の切れた所も数カ所で認められ、一部は完全に地面まで落ちている所も見られた。海岸部に近いところでは道路の亀裂や陥没が著しく、所々で液状化による泥の噴出が見られた。

・灘区

特に、中央部の阪急電鉄と阪神電鉄の軌道間の地域で家屋（木造、鉄筋とも）の倒壊率が極めて高い。一部地域では火災による被害もあった。阪神大石駅東側のガードが落ちた付近では、倒壊率が100%近くもあるところがあった。

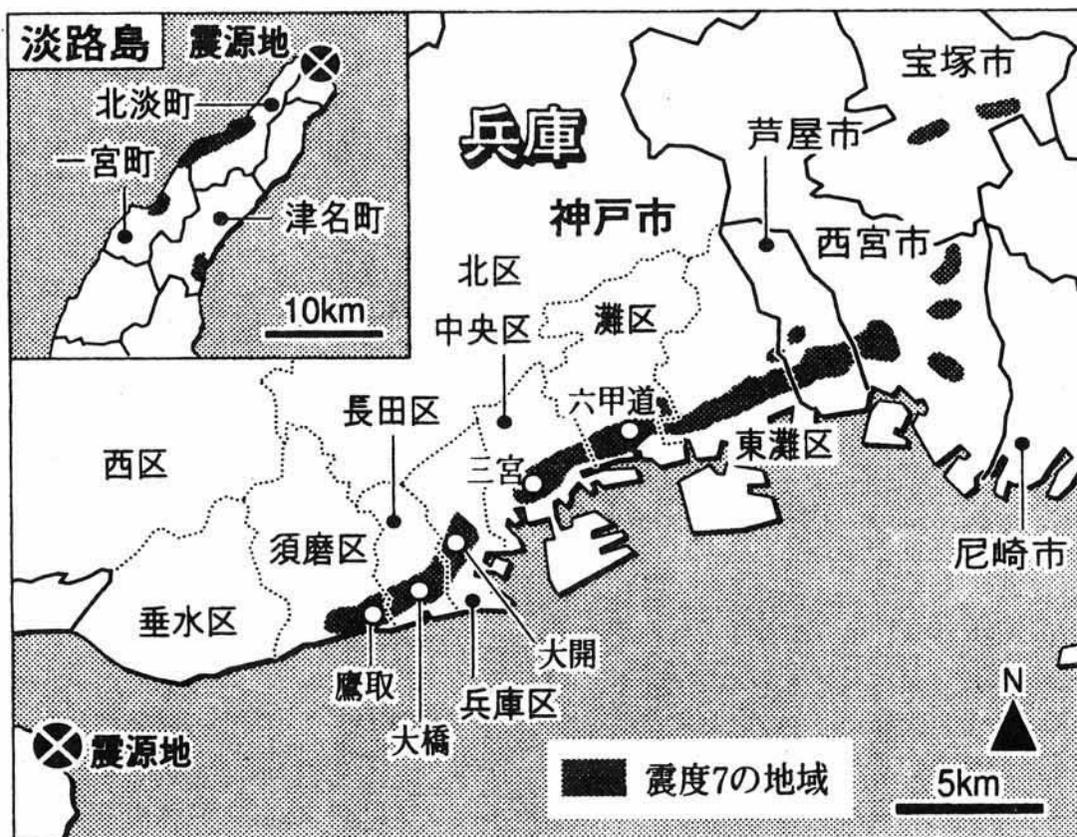
た。南部の工業地帯でも道路の亀裂、高架の落下などの被害が見られた。

・東灘区

南東部の阪神高速道路の高架が数百メートルにわたり横倒しになるなど、山手幹線の南側全域で被害が大きかった。木造家屋の密集地では火災も多く発生した。

参考 震度7（激震）とは……  
 家屋の倒壊が30%以上に及び、山崩れ、地割れ、断層などを生じるものをいう。

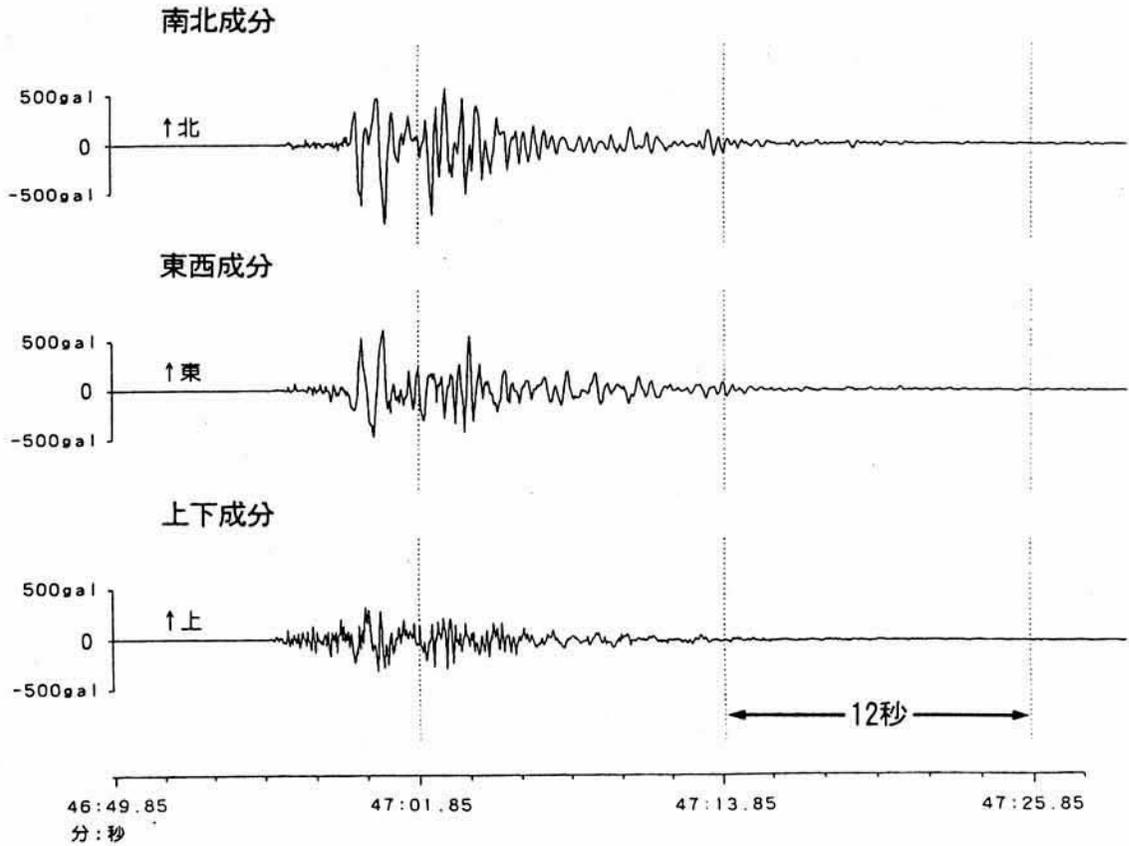
図2-2 現地調査による震度7の分析



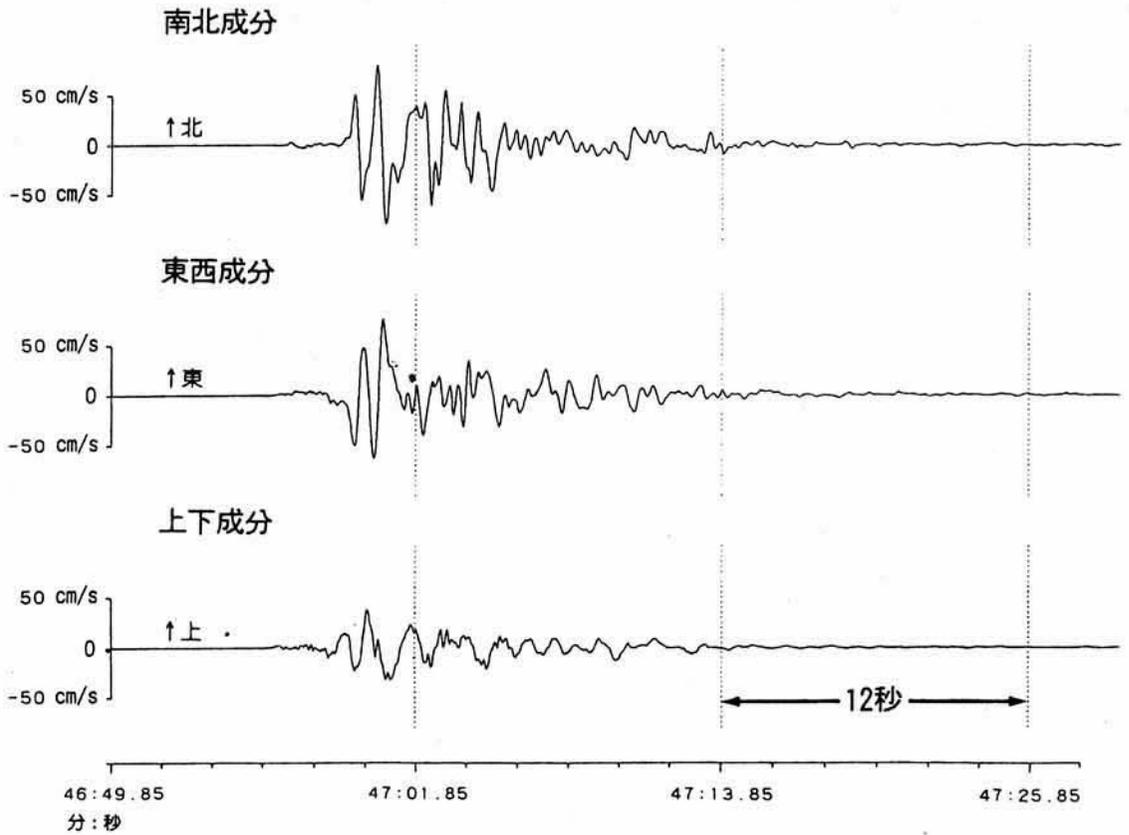
資料：神戸新聞（2月8日朝刊）

(8)電磁式強震計記録 (神戸海洋気象台)

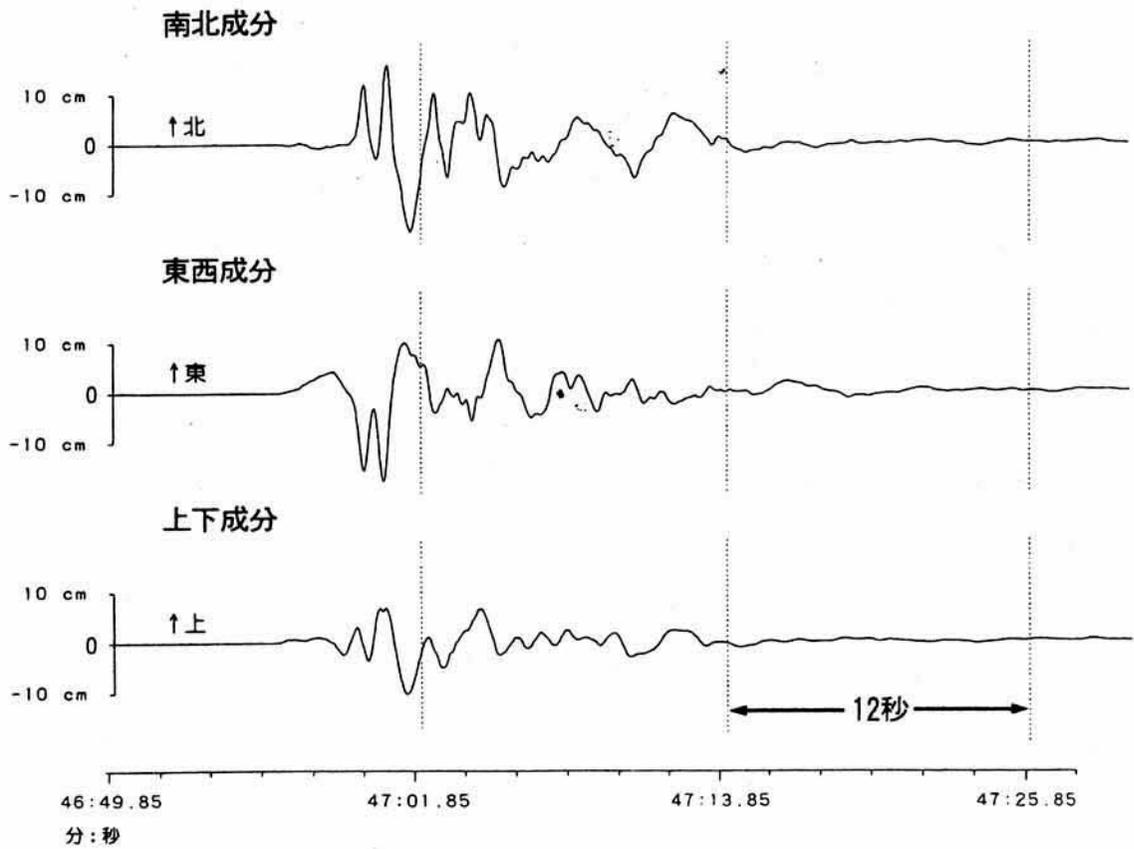
**加速度**



**速度**



# 変位



(9)各地の最大加速度値（片振幅）

官 署 名	所 在 地	最大加速度 (gal)		
		南北	東西	上下
神戸海洋気象台	神戸市中央区	818	617	332
大阪管区気象台	大阪市中央区	81	66	65
舞鶴海洋気象台	舞鶴市字下福井	67	52	39
岡山地方気象台	岡山市桑田町	77	59	36
鳥取地方気象台	鳥取市吉方	77	74	15
彦根地方気象台	彦根市城町	137	147	39
津地方気象台	津市島崎町	71	60	26
福井地方気象台	福井市豊島	33	42	10

(10)命 名 平成7年（1995年）兵庫県南部地震

資料：気象庁「災害時地震・津波速報」

### 3. 余震の状況

#### (1) 気象官署における最大震度別有感余震回数 (本震後10日間)

震度	1	2	3	4	合計
1月17日	23	27	7	4	61
18日	11	3	3	0	17
19日	6	4	3	0	13
20日	3	2	1	0	6
21日	4	0	1	0	5
22日	2	0	0	0	2
23日	1	1	2	0	4
24日	0	1	0	0	1
25日	1	2	0	1	4
26日	3	0	0	0	3
合計	54	40	17	5	116

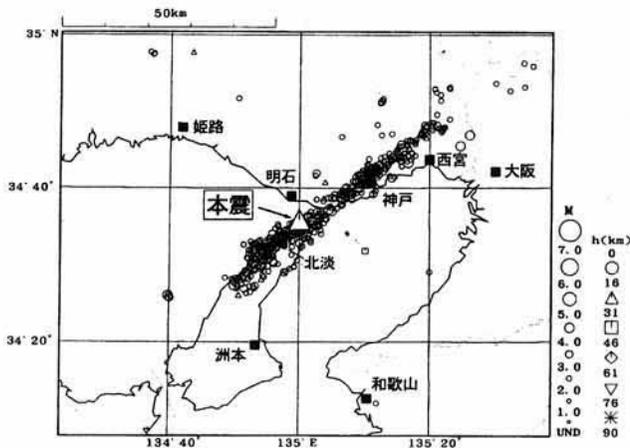
- ・ 震度4の余震 1月17日午前5時49分 神戸
- 1月17日午前5時52分 神戸
- 1月17日午前7時38分 奈良
- 1月17日午前8時58分 神戸
- 1月25日午後11時16分 神戸

※臨時観測点の震度を除く

#### (2) 余震状況

##### 震央分布図 (大阪管区気象台による)

期間：1995年1月17日 05:46(本震)～1月25日 24:00



#### (3) 気象官署のとした措置 (大阪管区気象台)

- 5時46分 緊急作業開始
- 5時48分 「強い揺れの通知」自動発信
- 5時49分 震源決定
- 5時50分 津波注意報を発表(ツナミナシ)
- 5時52分 各地の震度について、ジシン編集報発信
- 5時55分 地震情報第1号発表
- 5時59分 地震情報第2号発表(震度追加)
- 6時13分 地震情報第3号発表(神戸の震度追加)
- 7時00分 非常災害対策本部設置
- 7時08分 地震情報第4号発表  
(気象官署以外の震度4以上の観測点追加)
- 7時46分 地震情報第5号発表(7時38分の余震)
- 23時00分 本庁地震機動観測班と合同で被害調査及び震度計設置のため、神戸へ出発



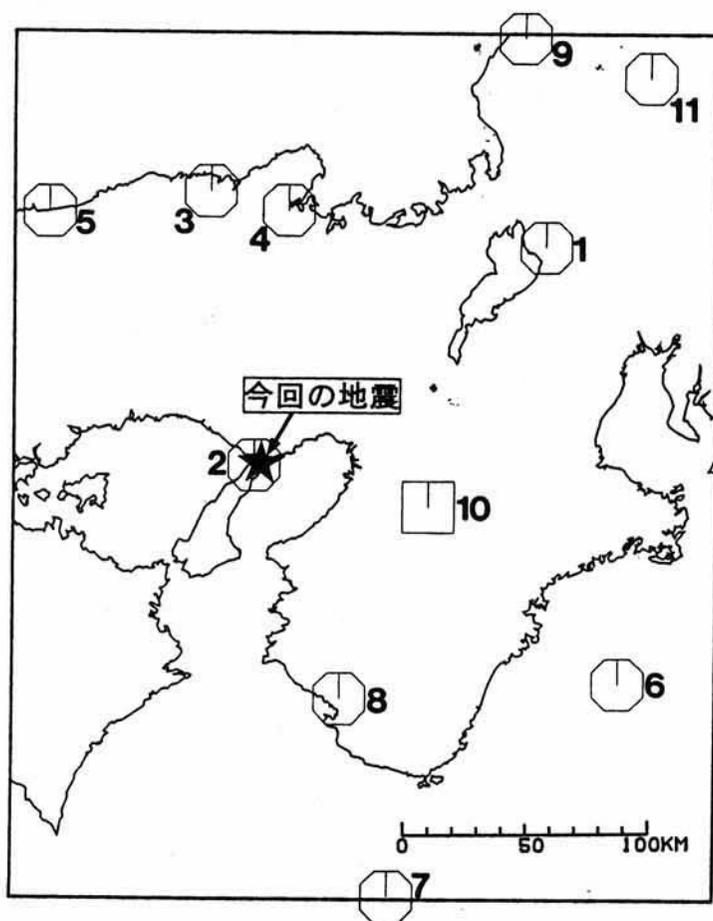
## 第3章 過去の地震

### 1. 日本での主な地震（明治以降）

地震	年月	マグニチュード	被害状況
濃尾地震	1891. 10. 28	M 8.0	内陸地震としては最大のもの。建物全壊14万余戸、半壊8万余戸、死者7,273人。
東京湾北部地震	1894. 6. 20	M 7.0	東京、横浜の被害が大きかった。神田・本所・深川で全半壊の家屋多数。東京で死者24人。川崎・横浜で死者7人。この地震で銀座のレンガ街が崩れた。
関東大震災	1923. 9. 1	M 7.9	地震後火災が発生し被害を大きくした。死者不明14万2千余人、家屋全半壊25万4千余戸、焼失44万7千余戸。
北但馬地震	1925. 5. 23	M 6.8	円山川中心に死者428人。地震計振幅は関東大震災の62ミリを越える84ミリを記録した。
北丹後地震	1927. 3. 7	M 7.3	若狭湾中央が震源地の大地震。死者2,925人。全壊家屋は12,584戸。
鳥取地震	1943. 9. 10	M 7.2	鳥取市・大黒座に出演中の役者・大谷友右衛門など死者1,083人。
東南海地震	1944. 12. 7	M 7.9	静岡・愛知・三重などで死者不明1,223人。全壊家屋1万7千余戸。
三河地震	1945. 1. 13	M 6.8	震源地は渥美湾。中部・関東・近畿・四国の一部と広範囲にわたる。死者2,306人。
南海地震	1946. 12. 21	M 8.0	近畿・中国・四国から東海方面に被害が及んだ。死者1,330人。
福井地震	1948. 6. 28	M 7.1	直下型地震で福井市の家屋全壊3万6千余戸。同刑務所の囚人60人が逃走。死者3,769人。
十勝沖地震	1952. 3. 4	M 8.2	震源地は襟裳岬東方海底。日高・十勝・釧路方面の被害甚大。死者28人。
新潟地震	1964. 6. 16	M 7.5	同市内・昭和石油の石油タンク爆発、昭和大橋が落橋などの被害。死者26人。
1968年十勝沖地震	1968. 5. 16	M 7.9	地震の規模が関東大震災級。北海道・東北が被害。死者52人。八戸で7,000トン級の外国船が座礁。コンクリート造り建築の被害が目立った。
伊豆半島沖地震	1974. 5. 9	M 6.9	伊豆半島南部沖で発生。死者不明30人。家屋全壊134戸。同半壊240戸。
伊豆大島近海地震	1978. 1. 14	M 7.0	伊豆天城湯ヶ島町の鉱業所のシアン化合物が川・湾に流出。死者25人。当日午前、気象庁から地震情報が出されていた。
宮城県沖地震	1978. 6. 12	M 7.4	仙台市を中心に住宅地のブロック塀の倒壊が続出し問題化。死者28人。
日本海中部地震	1983. 5. 26	M 7.7	秋田・男鹿市の加茂海岸で津波により遠足の小学生ら死者104人。
釧路沖地震	1993. 1. 15	M 7.8	震度6を11年ぶりに記録。死者2人。ケガ人約1,000人。北海道東部では4万7千戸が停電。
北海道南西沖地震	1993. 7. 12	M 7.8	奥尻島などに津波。死者202人。日本海で発生した地震では史上最大規模。
北海道東方沖地震	1994. 10. 4	M 8.1	国後、択捉・歯舞、色丹の北方4島で大きな被害。根室市内では40人が負傷。
三陸はるか沖地震	1994. 12. 28	M 7.5	八戸市中心に被害。死者2人。岩手県内で200人以上がケガ。青森県と岩手県で約7万戸が停電。

出典：毎日新聞社「阪神大震災全記録」

2. 近畿地方に被害をもたらした1900年以降の主な地震 (M6以上、人的被害を伴った地震)



	地震	年月	マグニチュード	最大震度	被害状況
1	江濃(姉川)地震	1909. 8. 14	M 6. 8	VI: 彦根、岐阜	死者41人・負傷者 784人 家屋全壊 978
2	兵庫県南岸	1916. 11. 26	M 6. 1	IV: 大阪、徳島	死者 1人・負傷者 5人 家屋全壊 3
3	北但馬地震	1925. 5. 23	M 6. 8	VI: 豊岡	死者 465人・負傷者 1,106人 家屋全壊 1,733
4	北丹後地震	1927. 3. 7	M 7. 3	VI: 宮津、豊岡	死者 2,925人・負傷者 7,806人 家屋全壊 5,026
5	鳥取地震	1943. 9. 10	M 7. 2	VI: 鳥取	死者 1,083人・負傷者 3,259人 家屋全壊 7,485
6	東南海地震	1944. 12. 7	M 7. 9	VI: 津、御前崎	死者 998人・重傷者 3,059人 住家全壊26,130
7	南海地震	1946. 12. 21	M 8. 0	V: 潮岬、尾鷲、橿原、徳島、洲本、彦根、高知、津、境、高松	死者 1,330人・負傷者 3,842人 家屋全壊11,591
8	和歌山県南東部	1948. 6. 15	M 6. 7	IV: 和歌山、神戸、大阪、潮岬、尾鷲、洲本、伊良湖、橿原、室戸岬	死者 2人・負傷者33人 家屋倒壊60
9	福井地震	1948. 6. 28	M 7. 1	VI: 福井	死者 3,769人・負傷者22,203人 家屋全壊36,184
10	吉野地震	1952. 7. 18	M 6. 8	IV: 橿原、京都、大阪、津、尾鷲、神戸、亀山、洲本、彦根、姫路、岐阜、岡山、名古屋、豊岡、四日市、福井、鳥取、和歌山、奈良	死者 9人・負傷者 136人 家屋全壊20
11	北美濃地震	1961. 8. 19	M 7. 0	IV: 福井、敦賀、飯田、名古屋、舞鶴、津、豊岡、亀山	死者 8人・負傷者43人 住家全壊12

資料: 気象庁「災害時地震・津波速報」